

朝霞市有公共施設耐震化計画
(平成26年度改訂)

平成27年2月

朝霞市

総務部財産管理課

— 目 次 —

| | | |
|---|------------------------------|---|
| 1 | 計画の実施状況 | 1 |
| 2 | 改訂の内容 | 2 |
| 3 | 朝霞市有公共施設耐震化計画一覧表（平成 26 年度改訂） | 4 |

1 計画の実施状況

平成 19 年 12 月に策定された「朝霞市有公共施設耐震化計画」は、平成 20 年 4 月より事業を実施しています。

また、当初計画では、耐震診断の結果や施設の耐震化の準備作業の進捗状況、あるいは施設の改修、再建等の計画状況を踏まえ、必要に応じて計画の見直しを行うこととしています。

この方針にもとづき、平成 20 年度は、市庁舎ほか 2 施設の耐震診断を実施しました。

平成 21 年度は、市民会館のほか 3 施設の耐震診断と東朝霞公民館の耐震補強設計を実施するとともに、計画を改訂しました。

平成 22 年度は、本町保育園の耐震診断のほか南朝霞公民館の耐震補強設計、東朝霞公民館の耐震補強・内外装改修工事を実施するとともに、計画を改訂しました。

平成 23 年度は、根岸台保育園、栄町保育園及び泉水保育園の耐震診断のほか南朝霞公民館の耐震補強・内外装改修工事を実施するとともに、計画を改訂しました。

平成 24 年度は、根岸台保育園、栄町保育園及び泉水保育園の耐震診断の結果や、市庁舎及び市民会館の整備方針等の検討を踏まえて、計画を改訂しました。

平成 25 年度は、栄町保育園、泉水保育園の耐震補強・内外装改修工事を実施するとともに、市庁舎及び市民会館の耐震対応方針について、既存建物を耐震改修することに決定しました。また、「はまさき生き生き健康タウンの形成」構想を踏まえ、保健センター及び武道館の耐震対応方針の再検討を行うこととし、計画を改訂しました。

平成 26 年度は、市庁舎耐震化事業に係る工事費等の増額及び市民会館の吊り天井の耐震性能の調査結果等を踏まえて、計画を改訂しました。

なお、今後、公共施設の耐震化については、平成 27 年度に策定を予定している「朝霞市公共施設等総合管理計画」の中に位置づけることとします。

〔耐震化事業〕

| 施設名 | 現在の状況 |
|--------------|------------------------------|
| 市庁舎（本館・議場棟） | 平成 26 年度～平成 29 年度（耐震工事等実施） |
| 市民会館（本館・ホール） | 平成 28 年度～平成 29 年度（耐震工事等実施） |
| 保健センター | 平成 23 年度～平成 27 年度（耐震対応方針の検討） |
| 武道館 | 平成 26 年度～平成 27 年度（耐震対応方針の検討） |

2 改訂の内容

今回の改訂では、市庁舎の耐震化事業について、労務単価及び建築資機材の大幅な上昇により工事費等の事業費が増額となったこと、市民会館のホールの吊り天井を調査した結果、新たに耐震改修が必要となったことを受けて、これまでの計画を変更することになりました。

このため、耐震改修の総事業費が 18 億 2,913 万円から 26 億 5,285 万円に変更され、8 億 2,372 万円の増額となっています。

内訳としては、市庁舎の耐震工事に係る設計・工事及び工事監理の 5 億 9,200 万円の増額、市民会館の耐震工事に係る設計・工事及び工事監理の 2 億 3,172 万円の増額となっています。

なお、公共施設の耐震化については、財政状況や事業の進捗状況を踏まえ、協議、検討等を行い、事業期間、事業内容及び事業費等の見直しを行います。

○市庁舎

- ・東日本大震災の復興需要に加え 2020 年のオリンピック開催地が東京に決定したことで建設需要が急増し、労務単価及び建設資機材が大幅に上昇したことなどから、工事費等の増額及び事業期間の延長を行いました。
- ・近年、急速に進展かつ多様化している耐震工法について、民間が保有する技術やノウハウを効果的に活用するため、事業者の選定は、公募型プロポーザル方式を採用したことから、提案内容を厳正かつ公平に審査するため、有識者 3 名による「朝霞市庁舎施設耐震化事業プロポーザル選定委員会」を設置し、契約候補者を選定しました。

①事業期間

- (22 改訂) 平成 20 年度～平成 24 年度
- (24 改訂) 平成 20 年度～平成 25 年度
- (25 改訂) 平成 20 年度～平成 28 年度
- (26 改訂) 平成 20 年度～平成 29 年度

②事業内容

- (当初計画) 診断 平成 20 年度
- (22 改訂) 検討 平成 21 年度～平成 24 年度
- (24 改訂) 検討 平成 21 年度～平成 25 年度
設計 (未定)
工事 (未定)
- (25 改訂) 事業者の選定 平成 25 年度～平成 26 年度
設計 平成 25 年度～平成 27 年度
工事 平成 27 年度～平成 28 年度
監理 平成 27 年度～平成 28 年度
- (26 改訂) 事業者の選定 平成 26 年度
設計 平成 26 年度～平成 27 年度
工事 平成 27 年度～平成 29 年度
監理 平成 27 年度～平成 29 年度

③事業費

| | |
|---------|---------------------|
| (22 改訂) | 7,245 千円 (耐震診断のみ) |
| (25 改訂) | 1,143,245 千円 |
| (26 改訂) | <u>1,735,245 千円</u> |

○市民会館

- ・市民会館の耐震化対応については、「朝霞市庁舎等の耐震化方針」により、様々な工法の中からさらに安価で適切なものを検討した上で耐震化事業に着手するとされています。そこで、市民会館の補強箇所が会議棟に多いという構造的な特徴を踏まえ、より効率のよい工法及び施工方法を選定することで耐震工事経費の縮減を図ることができないか、具体的な検討を行った結果、建物内部の施工を許容した耐震工法が適切であると判断しました。
- ・「特定天井（※1）」に該当するホールの客席天井について、耐震性能の調査を実施した結果、平成 17 年に補強工事を実施しているものの、現在の基準には適合していないことが判明しました。この結果、市民会館の天井の耐震対策で、既存の天井を解体し、新たに天井を構築する費用が追加で必要となったことから工事費等を増額しました。
- ・市民会館の耐震工事費等が天井改修の必要性から増加したこと及び市庁舎の耐震化事業に係る経費が労務単価等の上昇により大幅増となったことを受けて、現在の厳しい財政状況等を考慮しながら検討した結果、市民会館の耐震化事業（設計・工事・工事監理）について、それぞれ 1 年先送りとし、平成 28 年度着手の 2 ヶ年計画に変更しました。

（※1）平成 23 年に発生した東日本大震災においては、吊り天井などの非構造部材が落下したことによる死傷事故が発生しました。これを受けて、国土交通省では、広さ 200 m²以上かつ高さ 6.0m 以上であって、天井材の質量が 2kg/m²以上のものを「特定天井」と定義し、防災拠点施設などの既存建築物の対応として、天井材の脱落対策を行うように求めています。市民会館では、ホールの客席部の天井がこれに該当します。

①事業期間

| | |
|---------|---------------------------|
| (22 改訂) | 平成 21 年度～平成 24 年度 |
| (24 改訂) | 平成 21 年度～平成 25 年度 |
| (25 改訂) | 平成 21 年度～平成 28 年度 |
| (26 改訂) | 平成 21 年度～ <u>平成 29 年度</u> |

②事業内容

| | | |
|---------|----|-------------------|
| (当初計画) | 診断 | 平成 21 年度 |
| (22 改訂) | 検討 | 平成 22 年度～平成 24 年度 |
| (24 改訂) | 検討 | 平成 22 年度～平成 25 年度 |
| | 設計 | (未定) |
| | 工事 | (未定) |

| | | |
|---------|---------|-----------------|
| (25 改訂) | 耐震工法の検討 | 平成 26 年度 |
| | 設計 | 平成 27 年度 |
| | 工事 | 平成 28 年度 |
| | 監理 | 平成 28 年度 |
| (26 改訂) | 耐震工法の検討 | 平成 26 年度 |
| | 設計 | <u>平成 28 年度</u> |
| | 工事 | <u>平成 29 年度</u> |
| | 監理 | <u>平成 29 年度</u> |

③事業費

| | |
|---------|-------------------|
| (22 改訂) | 6,059 千円 (耐震診断のみ) |
| (25 改訂) | 504,859 千円 |
| (26 改訂) | <u>736,576 千円</u> |

朝霞市有公共施設耐震化計画一覧表(平成26年度改訂)

| No | 施設名 | 防災関連 | 階数 | 構造 | 延床面積 (㎡) | 建築年 | 建築年 | 経過年 | 耐震診断結果 | | | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 23年度 | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 事業費内訳(千円) | | | 事業費計 (千円) | |
|----|-----------|-------------------------|-------|-----|-------------|-------|-------|------|----------------|-------------------------------|-------------------------------|---------------|---------------|--------------------------|---------------------------|--|--------------------------|----------------|-------------------------------------|----------------------------------|---------------|----------------|------------------------------|---------------|---------------------------|--------|
| | | | | | | | | | 最小 耐震性能 | 目標 耐震性能 | 耐震判定 | | | | | | | | | | | 耐震診断 | 耐震設計 | 耐震工事 | | |
| 1 | 市庁舎 | 災害対策本部 | 5F、B1 | RC | 7,347 | 昭和47年 | 1972 | 42 | (Is値) 0.264 | (Is値) 0.75 | 不合格 | 耐震診断 7,245 | | | 方針の検討 | 整備方針の検討 (庁舎等整備方針検討委員会 (公共施設整備等調整会議)) | 事業者 の選定 | 耐震設計 84,240 | 耐震工事 1,620,000 工事監理 23,760 | | 耐震診断 7,245 | 耐震設計 84,240 | 工事費 (工事監理含む) 1,643,760 | 1,735,245 | | |
| | | | 3F | RC | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 市民会館 | 一時滞在施設 | 5F、B1 | SRC | 6,958 | 昭和51年 | 1976 | 38 | (Is値) 0.25 | (Is値) 0.75 | 不合格 | 耐震診断 6,059 | | | 方針の検討 | 整備方針の検討 (庁舎等整備方針検討委員会 (公共施設整備等調整会議)) | 耐震工法 の検討 | | 耐震設計 16,805 | 耐震工事 704,440 工事監理 9,272 | 耐震診断 6,059 | 耐震設計 16,805 | 工事費 (工事監理含む) 713,712 | 736,576 | | |
| | | | 5F、B1 | SRC | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 旧猪苗代湖自然の家 | | 3F | RC | 2,083 | 昭和41年 | 1966 | 48 | (Is値) 0.30 | (Is値) 0.75 | 不合格 | 耐震診断 7,560 | | | | | | | | | | 耐震診断 7,560 | | 7,560 | | |
| | | | 3F | S | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | 保健センター | 医療救護マ ネージメントセン ター | 3F、B1 | RC | 1,906 | 昭和54年 | 1979 | 35 | (Is値) 0.34 | (Is値) 0.75 | 不合格 | 耐震診断 2,898 | | | 方針の検討 | | | | | | | 耐震診断 2,898 | | | 2,898 | |
| 5 | 東朝霞公民館 | 避難場所 | 2F | RC | 1,377 | 昭和55年 | 1980 | 34 | (Is値) 0.582 | (Is値) 0.75 | 不合格 | 耐震診断 2,730 | 耐震設計 4,179 | 耐震工事 (施設改修) 35,910 | | | | | | | | | 耐震診断 2,730 | 耐震設計 4,179 | 工事費 (施設改修含む) 35,910 | 42,819 |
| 6 | 南朝霞公民館 | 避難場所 | 3F | RC | 1,333 | 昭和52年 | 1977 | 37 | (Is値) 0.61 | (Is値) 0.75 | 不合格 | 耐震診断 2,468 | 耐震設計 6,251 | 耐震工事 (施設改修) 65,930 | | | | | | | | | 耐震診断 2,468 | 耐震設計 6,251 | 工事費 (施設改修含む) 65,930 | 74,649 |
| 7 | 武道館 | 避難場所 | 3F | RC | 965 | 昭和51年 | 1976 | 38 | (Is値) 0.55 | (Is値) 0.75 | 不合格 | 耐震診断 2,174 | | | | | 方針の検討 | | | | | | 耐震診断 2,174 | | | 2,174 |
| 8 | 本町保育園 | 賃貸借 (土地・建物) | 避難場所 | 1F | W | 515 | 昭和49年 | 1974 | 40 | (Iw値) 0.24 | (Iw値) 1.5 | 不合格 | | 耐震診断 2,447 | 耐震工事 (施設改修) (所有者施工) | | | | | | | | 耐震診断 2,447 | 耐震設計 所有者施工 | 工事費 (施設改修含む) 所有者施工 | 2,447 |
| 9 | 浜崎保育園 | 賃貸借 (土地・建物) | 避難場所 | 1F | W | 387 | 昭和39年 | 1964 | - | - | - | - | | 新築工事(賃貸借) | | | | | | | | | | | | |
| 10 | 根岸台保育園 | 賃貸借 (土地・建物) | 避難場所 | 1F | S | 512 | 昭和49年 | 1974 | 40 | (Is値) 1.22 (q値) 1.48 | (Is値) 0.75 (q値) 1.25 | 合格 | | | 耐震診断 3,801 | | | | | | | | 耐震診断 3,801 | | | 3,801 |
| 11 | 栄町保育園 | | 避難場所 | 1F | W | 409 | 昭和54年 | 1979 | 35 | (Iw値) 1.10 | (Iw値) 1.5 | 不合格 | | | 耐震診断 1,911 | 耐震設計 2,549 | 耐震工事 (施設改修) 19,438 | | | | | | 耐震診断 1,911 | 耐震設計 2,549 | 工事費 (施設改修含む) 19,438 | 23,898 |
| 12 | 泉水保育園 | | 避難場所 | 1F | W | 446 | 昭和56年 | 1981 | 33 | (Iw値) 0.46 | (Iw値) 1.5 | 不合格 | | | 耐震診断 2,102 | 耐震設計 2,649 | 耐震工事 (施設改修) 16,031 | | | | | | 耐震診断 2,102 | 耐震設計 2,649 | 工事費 (施設改修含む) 16,031 | 20,782 |
| | | | | | | | | | | | 耐震診断 計 | 12,873 | 18,261 | 2,447 | 7,814 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 小計 | | | 合計 |
| | | | | | | | | | | | 耐震設計 計 | 0 | 4,179 | 6,251 | 0 | 5,198 | 0 | 2,528 | 81,712 | 16,805 | 0 | 耐震診断 | 耐震設計 | 工事費等 | | |
| | | | | | | | | | | | 耐震工事(工事監理含む。) 計 | 0 | 0 | 35,910 | 65,930 | 0 | 35,469 | 0 | 648,000 | 667,008 | 1,042,464 | 41,395 | 116,673 | 2,494,781 | 2,652,849 | |
| | | | | | | | | | | | 合計 | 12,873 | 22,440 | 44,608 | 73,744 | 5,198 | 35,469 | 2,528 | 729,712 | 683,813 | 1,042,464 | | | | | |

※1 構造が鉄筋コンクリート造(RC)、鉄骨鉄筋コンクリート造(SRC)の場合の耐震性能指標値は、最小、目標とも構造耐震指標の値(Is値)とする。
 ※2 構造が木造(W)の場合の耐震性能指標値は、最小、目標とも上部構造評点(保有耐力/必要耐力)の値(Iw値)とする。
 ※3 構造が鉄骨造(S)の場合の耐震性能指標値は、最小、目標とも構造耐震指標の値(Is値)及び保有水平耐力の値(q値)とする。
 ※4 平成20年度～平成25年度の事業費は実績による。
 ※5 市庁舎の事業費は、予算ベースとする。
 ※6 市民会館の事業費は、計画上の推計値とする。